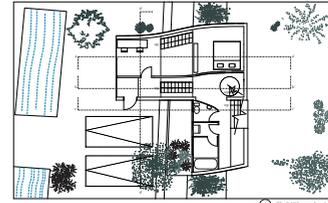
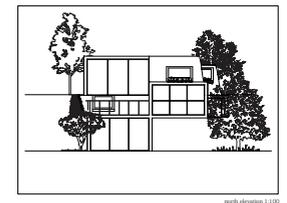
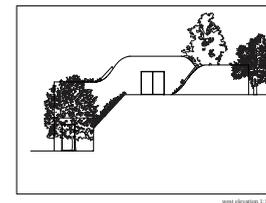
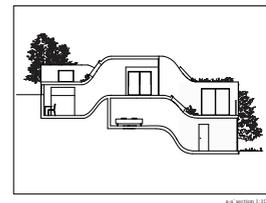
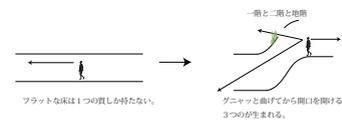


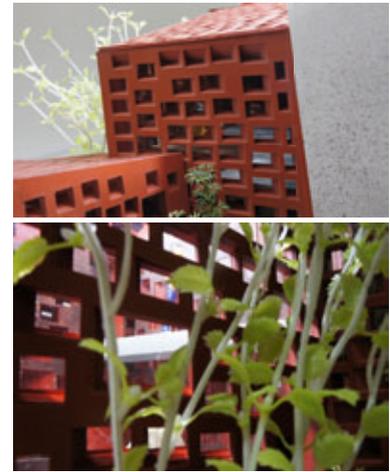
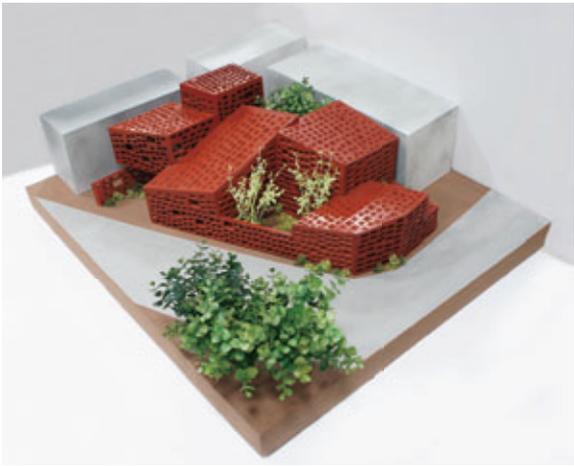
一階と二階と地階

例えば、一階と二階と地階があった時、一番魅力的なのはどこか？  
例えば、ダイニングだったらどこにあるのが良いのか？  
一階の底と連続したダイニングがいのだろうか？底と一体に使えるダイニング？  
それとも、二階の眺望の良いダイニングがいのだろうか？  
あるいは、半地下の落ち着いたダイニングが良いのか？  
同じことをリビングでは？寝室では？一階、二階、地階。どれも、捨て難い。  
そこで、ここでは前述のアーキタイプの中から「合成型」を用いて、一階/二階/地階を重ね合わせた住宅の設計を行なう。1つの空間の中で一階、二階、地階が混ざり合い矛盾した空間を作る。



一階/二階/地階の重ね合わせ方(合成型)

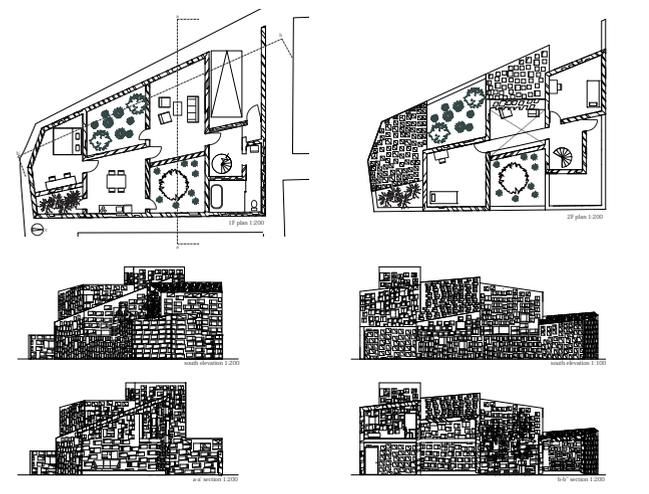
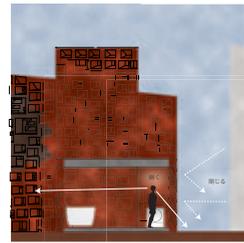
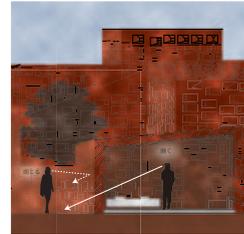
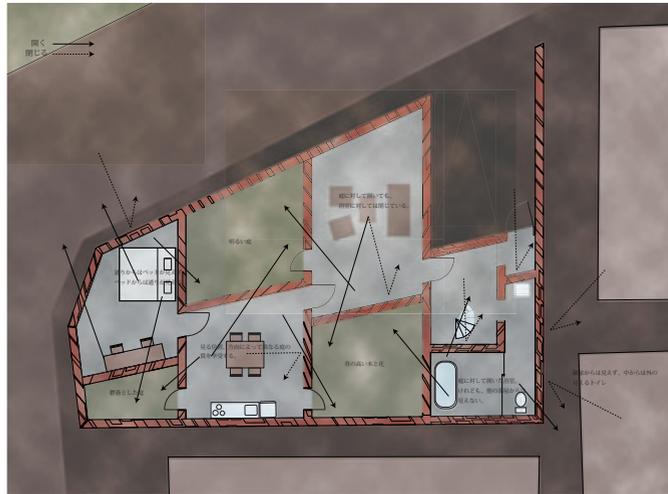
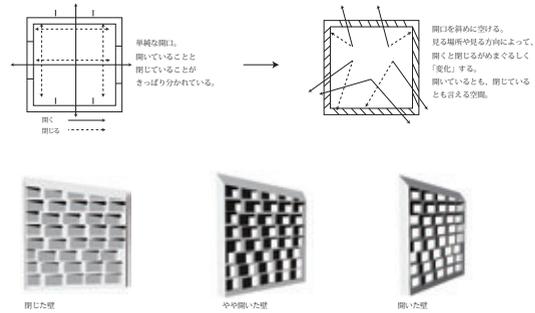


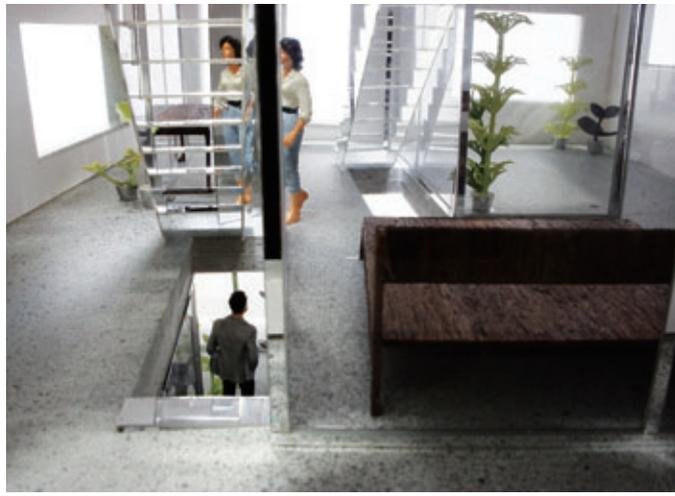
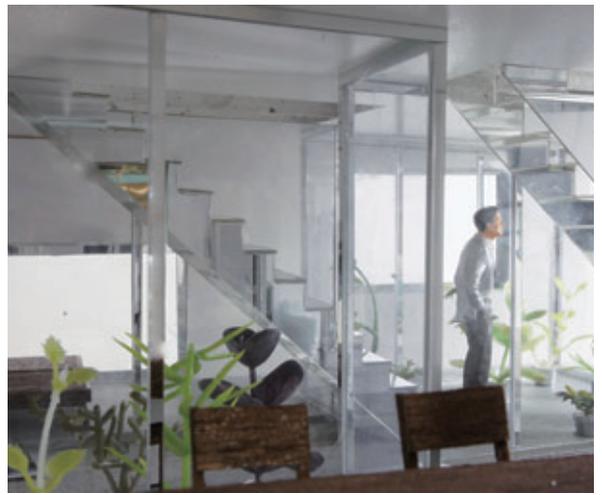
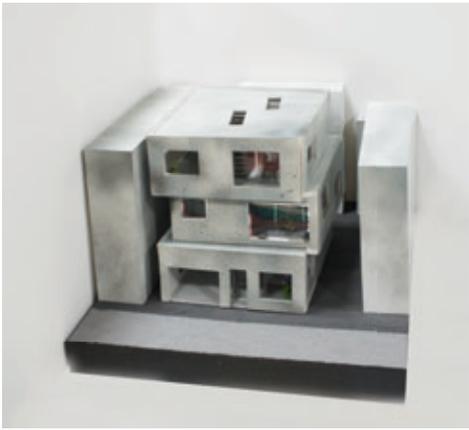


開放と閉鎖

例えば、建築は空間を開いた方がいいのか、それとも閉じていた方がいいのか？  
 例えば、住宅は開いている方がいいのか、それとも閉じていた方がいいのか？  
 開いた開放的な空間で、外部環境を建築の中に取り入れた方がいいのか、それとも閉じた空間を作り、落ち着いた空間を作るべきなのか？  
 開いた空間には開いた空間の良さがあるし、閉じた空間には閉じた空間の良さがある。どちらも捨て難い。そこで、ここでは前述のアーキタイプの中から「変化型」を用いて、開放と閉鎖を重ね合わせた住宅の設計を行なう。開放的で閉鎖的な住宅。

開放／閉鎖の重ね合わせ方(変化型)





内部と外部

例えば、内部と外部はどちらが魅力的か？

内部の守られた領域、外部の空気の気持ち良さ。

どちらも忘れたくない。

そこで、ここでは前述のアーキタイプの中から「心象型」を用いて、

内部と外部を重ね合わせ、住宅の設計を行なう。

階段を上り下りするたびに、内部と外部の境目がかわる。

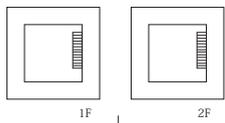
頭の中で自分が今、内部にいるのか外部にいるのかわからなくなる。

頭の中で内部と外部が重なり合う。

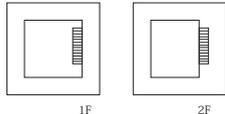
内部と外部、そんなことから解放された自由な生活。

内部と外部の重ね合わせ方(心象型)

一般的な上下階の関係



階段を壁を少しずらすことで、隣り合っている空間が反転する。頭の中で、どっちにいるのかわからなくなる。



頭の中で、内と外が重なり合う

